

いたがきたいすけしょかん
板垣退助書簡 どくらしょうざぶろうあて
土倉庄三郎宛 板垣退助自筆

九月十四日付 二枚 付封筒
縦25.2cm 横17.7cm

※「陽気」2010年10月号より

「板垣死すとも自由は死せず」で有名な自由党党首の板垣退助が、盟友の後藤象二郎(こうとうじょうじろう)他二名と共に明治十五年十一月より翌年六月まで、ヨーロッパを私的に外遊する為の費用を土倉庄三郎へ依頼した書簡。この洋行費全額が政府より出されたという噂から、意外な疑惑騒動をもたらし、党首の座も危うくなつた。板垣の命を賭けた一大誓約、「大和の土倉氏より出た」との言葉も信用されず、論争は続いた。約百年後に奇しくも掲載の領収証が発見され、板垣の言葉が立証される事となつた。

この書簡は明治新政府の裏

面史をかざる重要な資料の一
つ。土倉氏伝來の古文書中の
もので、昭和三十四年の伊勢
湾台風による大水害で古記の
大方は亡失し、残つた約三千
点の文書が昭和四十二年に本
館に寄贈され、その中から發
見された。

土倉庄三郎は現奈良県吉野

郡川上村に在した人物。天保

十一年（一八四〇）生まれで

吉野林業中興の祖にして奈良

県の山林王の一人。十八歳で

吉野川を独力で改修、自費で

吉野山中の道路を整備した。

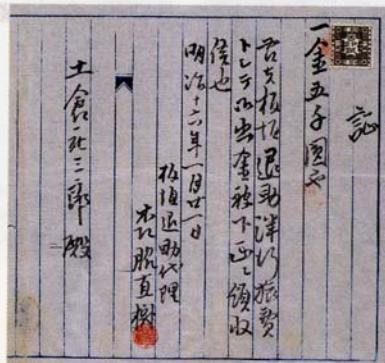
地元を始め日本各地、さらに

台湾へも植林事業を行う一方、

奈良公園の造園にも力を入れ

た。他にも私財を投じて地元に小学校を開校し、また、同志社大学の設立や日本女子大學の發展にも多大の寄付を行つた。明治十年前後から自由民権運動に投じて、関係政客への財的援助者となり、種々の活動への出資者となつた。

（天理図書館 中村廸也）



代理者による領収書

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 http://www.tcl.gr.jp/

平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

ただし10月18、26、29日は休み

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)